

高校数学における協同的・活動的な 班活動型の授業指導について

－意識アンケート（調査）の結果から－

平田 治夫

1 取組の視点について

いわゆる「生徒が、教師によるほぼ一方通行の伝達・講義を中心に受ける授業」と「生徒がグループ活動等を通して主体的に参加する学習のある授業」について、幾つかの視点含め今後の取組がどのように進められるべきか、「改善」の切り口として持つべき視点や注意点にはどのようなことがあるか、特殊な調査や検証方法を取らず、比較的簡単なアンケート形式で、通常の授業について確認したいと考えました。

したがってこれから説明する内容に実践的な取組例や具体的な生徒・教員用の意識調査の「統計学的な分析」、またその為の調査項目等の検証は殆ど含まれません。

因子等の分析にはサンプルの取り方や数等を含め調査方法の研究が必要で、具体的には今回実施したアンケートを利用することを考えています。なお、本稿では特別支援教育やインクルーシブ等の関係は、特には取り上げずに話を進めさせていただきます。

2 用語の整理について

講義型で座学中心の授業は「チョーク＆トーク」と呼ばれたりしますが、教授者による講義において一方通行型が中心の学習とその時間帯を特に想定し『講義受講中心型の学習』（以下略して講受型）と表記し、グループ・班別等（ペア学習等含む）の協同的活動による生徒参加型

を取り入れた学習とその時間帯を特に想定し『班別活動等設定型の学習』（以下略して『班活型』）と表記します。留意点を3点程補足します。

一点目、『班活型』については、7年（2007年度）ほど前から「アクティブラーニング」として実践・提唱されている小林昭文教諭が『「一方通行の授業でない」すべての授業』（キャリアガイダンスNo.47_2013）として説明されている趣旨とは異なり、主に班やグループによる活動を取り入れた学習を想定しています。

二点目、中央教育審議会答申(2012.8.28)の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」にある「能動的学修（アクティブ・ラーニング）」とも異なることになります。

三点目、「神奈川大学心理・教育研究論集第34号」で私が前回掲載頂いた内容で「アクティブラーニング」にあてた「活動的学習」とも異なります。『班活型』は、グループ学習等をより意識した扱いで考えています。尚、「活動的学習」と「アクティブラーニング」を等しく扱ってしまうことには難しさを感じています（このことは本稿のテーマと関係ありませんので別途機会があれば触れたいと思います）。

3 視点・論点の整理として

（1）『講受型』と『班活型』について、その優劣を比べ合うというのではなく、それぞれにあった学習状況等があるという立場に立って、

整理を進めることを考えています。例えば、『講受型』で扱う内容やプレゼンで板書等による説明を中心とする必要がある場合、机を付けた班別グループの形では、教壇に対して背中を向けることで、話が聞きにくくなったり、ノートが取りにくく黒板も見づらくなることがあるからです。しかし、さして気にならないという生徒ももちろんいます(資料2-A18:参照)。

(2)『班活型』としての班をつくる際に注意すべき点があります。例えば、授業・講義において、教室の形状等から机を着けた班別学習等がやりにくい場合があります。極端なことを言えば、コンピュータ室の固定机や階段教室等があげられる訳です。また、班やグループをつくる際に生徒の構成メンバーによって課題が生じます。これについては、例えば、「いじめ」等の影響が複雑に絡んだメンバー構成になってしまったり、アスペルガー等の傾向のある生徒、無言症(緘黙症)の生徒、不登校の状態であったり対人関係等に種々課題を抱えた生徒等が、グループに、場合によっては複数いることもあるからです。結論的には、グループ構成が「ある意味」で理想的な状態にあるときに、『班活型』

の展開も「理想的」になると思われます。

(3)『講受型』では、高度なまたは複雑な内容の説明や講義を中心とした授業で効果が高くなり、『班活型』では、協同学習での実習や演習、ワークショップ等で効果が高くなる傾向があると考えています。『班活型』では、例えば4～6人の班でプリントの演習や自由な話し合いの結果を色別の附箋(ポストイット)等を用いKJ法を用いて、大きい紙(模造紙)等へ色ペンで内容や班の意見を整理し書き込み、まとめを発表しあう活動などに、より適していると考えています。

(4)教員の指導力・指導法で注意しておきたい点をいくつかあげます。授業が主に『講受型』の教員は『班活型』の手法を積極的に体験し(可能な範囲で直ぐにでも実践に取入れ)、そのメリット・デメリットを実際に感じる事が大切です。その体験等がないまま『班活型』を取り入れていくことは難しいと考えています。

また、若手の教員が『班活型』を主に取り入れる実践を進めるとしても、例えば50～90分の授業を『講受型』でコントロールする力も身につけておくことは決して無駄ではありません

資料1

グループ学習についてのアンケート(班別小集団協同学習)

(作成例)

H25(2013).11(■■■■)

授業で、机をつけて4～5人程度の班別になり協同して学習することがあると思いますがそのことについて、次のアンケート調査に協力をお願いします。

A 良かったと感じていること(3～5個に○、その他は自由に記載)

A1	わからない所などが聞き易い	
A2	互いに教えあえる	
A3	普段話さない人と話せる機会になった	
A4	やらないといけない	
A5	楽になった	
A6	楽しくて記憶に残った	
A7	勉強がやりやすい	
A8	勉強がはかどる	
A9	分からない人が他にもいて安心した	
A10	グループ学習がある方が力が伸びた気がする	
A※	その他(自由記述)	

B 良くなかったと感じていること(3～5個に○、その他は自由に記載)

B1	教室がうるさくなった	
B2	基礎ができていないとやはり分からない	
B3	自分のペースでできない	
B4	先生が教えてくれないと分からない	
B5	分かる人がいないと班ごとおくれる	
B6	黒板が見にくい	
B7	勉強がやりにくい	
B8	寝れない	
B9	分からないひとばかりで不安になった	
B10	グループ学習がある方が伸びない気がする	
B※	その他(自由記述)	

※一部加筆・修正等あり。

■ 年 組 (・男・女) 番号: 名前: _____

(※番号や名前は未記入でもかまいません)

資料2

グループ学習についてのアンケート(班別小集団協同学習)・集計表

○授業で、机をつけて4～5人程度の班別になり協同して学習することがあると思いますが
そのことについて、次のアンケート調査に協力をお願いします。

(A:良い)

	Q:良かったと感じていること(3～5個に○、 その他は自由に記載)	男	女	不 明	合 計	
A1	わからない所などが聞き易い	13	14	36	63	
A2	互いに教えあえる	15	17	36	68	
A3	普段話さない人と話せる機会になった	*	8	4	19	31
A4	やらないといけなくなる	7	8	16	31	
A5	疲なくなった	9	7	16	32	
A6	楽しくて記憶に残った	*	7	3	9	19
A7	勉強がやりやすい	6	8	16	30	
A8	勉強がはかどる	*	5	2	7	14
A9	分からない人が他にもいて安心した	*	11	9	13	33
A10	グループ学習がある方が力が伸びた気がする	2	2	6	10	
		83	74	174	331	
A※	その他(自由記述)					
A11	悪いことはべつにない。					
A12	グループ学習はやりやすくていい。わからないところもすぐわかったし。					
A13	きがるに聞けるからいい！					
A14	グループでやるとみんなで考えるから、普段はそこまで考えなくても、考える。					
A15	みんな自分のペースでやっていだし、とくにうるさいわけでもなかった気がする					
A16	自分と違う意見を発見できるほどな！と思うことがあったこと					
A17	まじめに授業に取り組んでない人もやっていたのでその面ではいいと思った。					
A18	教室が静かすぎてねむくなることはなさそう。黒板の見えやすさなんて気にしないと思う。					
A19	授業のペースがゆっくり					
A20	#REF!					
A21	#REF!					
A22	#REF!					
A23	#REF!					
A24	#REF!					
A25	#REF!					
A26	#REF!					
A27	#REF!					
A28	#REF!					

*:男女差で目立つ項目につけてあります。

(B:良くない)

	Q:良くなかったと感じていること(3～5個に○、 その他は自由に記載)	男	女	不 明	合 計	
B1	教室がうるさくなった	8	6	21	35	
B2	基礎ができていないとやはり分からない	12	11	20	43	
B3	自分のペースでできない	*	7	11	26	44
B4	先生が教えてくれないと分からない	*	6	10	10	26
B5	分かる人がいないと班ごとおくれる	12	13	39	64	
B6	黒板が見にくい	4	6	18	28	
B7	勉強がやりにくい	*	0	1	7	8
B8	寝れない	*	5	1	9	15
B9	分からないひとばかりで不安になった	4	4	9	17	
B10	グループ学習があると力が伸びない気がする	*	1	0	9	10
		59	63	168	290	
B※	その他(自由記述)					
B11	個々にやった方がやりやすい。					
B12	普通の授業の方が良い					
B13	はっきり言って私にとってデメリットしかないです。					
B14	やる気がない人とむりやり組まされると勉強がしにくくなるし、グループをくんでも発表しなくちゃいけないときしか話さないで、全然いらなと思う。※					
B15	いっぱい喋っちゃう。楽しいから好きだけだね。					
B16	クラス全体がうるさくなったと思う。グループ学習はあまり好ましくない。とにかくやりにくい！！					
B17	誰も話を進めようとしない。					
B18	仲良い人同士でうるさいのと、それにまきこまれるのが本当に嫌です。今まで先生の言葉や黒板を自分のやり方でまとめたのに残念です。					
B19	授業のペースを上げてほしい！応用問題もやってほしい。					
B20	教室がうるさいのはクラスの問題ですけどやはりそれでもいつもよりはうるさい。					
B21	意見を言う人が同じで、言わない人がいる。※					
B22	分からない人ばかりだと質問ばかりしてくる。……※					
B23	人と関わることになるのであまりグループ学習は好きではないです。※					
B24	先生に教えてもらえばいいのだから、グループにする必要ない。					
B25	一緒にいる人によって、何でも任せられ、嫌だからといって発言とか自分がやることになる。だったらひとりでいつも通りの学習の方がやりやすいです。正直グループ学習はもうやりたくないです。※					
B26	グループ学習の良さが分かりません。					
B27	#REF!					
B28	#REF!					

※:一部加筆・修正等してあります。

H25.11調査
1年の3クラス
から101人回答

ん。むしろ大変重要かつ必要なことではないでしょう。

一般的に1時間半程の授業の総てを『講受型』とするのは、生徒だけでなく教員にとっても大変な時があります。私自身、高校3年の理数クラス「数学Ⅲ」2時間連続授業で、1時間目は『講受型』が中心、2時間目は入試問題のテストや生徒同士のディスカッションやゼミ等としたことがあります。

また、「教科書の記載にそい教える授業（実はかなり難しい）」か、専門的な研究の知見や深い知識・理解があり「教科書の内容の背景等を含め、より高度な専門的・学術的な説明を適宜補足等しながら教える授業」かについては、『講受型』『班活型』を問わず、常に適切に対応出来る力が教員に求められています。

4 アンケート結果から（その1）

「資料1～3」について：今回のアンケート調査は、神奈川県内のS高校において、いわゆる「活動的学習（アクティブラーニング）」について知識・理解があり、かつグループ・班別活動を授業に実際に取り入れた指導を経験したことのある1学年3クラスの生徒を対象としました。3クラスから101人の回答が得られ（H25（2013）年11月1日から7日までに）、回収したものとなります。

「資料1」は、今回実施したアンケート紙の基本形となるものです。特に配慮した点があります。質問を今後の指導や生徒間の関係を考え、人間関係が直接反映するような項目は、極力避け、代わりに自由に記述できる枠を広めに取りました。かなりの生徒からの記述がありました。

アンケートの質問項目は、同じ県内のK高校で別に実施された調査結果から、生徒の具体的な回答例で意識調査に有効と思われる内容を参考に作成しました。

「資料2」は、アンケートの○と自由記述を単純にまとめたものです。表の数値は○の数に

なります。また自由記述の部分に、種々考慮し生徒の趣旨をそこねない程度に、一部修正等加えてあります（※印を付けました）。

なお、クロス集計も数種作成しましたが本稿では割愛します。

「資料3」は、「○」を「1」、「空欄」を「0」と数値化し、各質問間の相関係数について、次の3つの関係を調べたものです。

- ・1つ目：A1～10とB1～10の各項目間
- ・2つ目：A1～10の各項目間
- ・3つ目：B1～10の各項目間

5 アンケート結果から（その2）

「資料2」について：資料の回答・集計の結果から、A項目とB項目の関連も含め、気付いたり、気になった点から、幾つか取り上げます。
1点目：「A5：寝なくなった」の32人と「B8：寝れない」の15人の回答者の重なりは資料を調べたところ8人でした。つまり101人中 $32 + 15 - 8 = 39$ 人（約4割）の生徒が「寝なくなった」ということになります。この人数の割合に高さを感じる方も多いと思われますが、この点については、グループ学習の一つの大きな効果と言う方がいます。

2点目：「A1：分からない所などが聞きやすい」の63人と「A2：互いに教えあえる」の68人から分かるように、相談しやすく教えあえるということ、生徒はかなり高く評価（約7割近い）していることが分かります。『班活型』の大きな特徴・メリットと言えます。

3点目：「A3：普段話さない人と話せる機会になった」の31人をどう評価するかですが、肯定的に見るなら、コミュニケーション能力の向上や「いじめ」等の対策に繋がる面があると考えることが出来ます。

4点目：「A9：分からない人が他にもいて安

心した」の33人と、「B 9:分からない人ばかりで不安になった」の17人は、資料を調べた結果、重なりがありませんでしたので、安心または不安を感じた生徒が50人（約半数）となります。授業の仕方では、ある程度は数値が変動すると思われますが、自然な感情とも捉えられます。実際問題として、「安心」も「不安」もどちらも授業指導上の課題と捉えるべきです。

5点目：「B 5：分かる人がいないと班ごと遅れる」の64人はB項目の中で一番多い回答数になりました。生徒は個人であってもグループであっても、遅れることにはかなり敏感です。

また、私としては人数が想定外に多いと感じました。理由は、このB 5は生徒の様子を見て、私が新たに作成した項目でK高校の生徒の回答に実際は、無かったものです。アンケートの質問項目や取り方の恣意性、そしてその怖さをあらためて認識することになりました。

6点目：「B 1：教室がうるさくなった」の35人は、やはり勉強を静かになりたい生徒が「確実に」いるということ。「B 2：基礎が出来ていないとやはり分からない」の43人や「B 3：自分のペースでできない」の44人も高い数値と感じています。

5点目からも言えることですが、『班活型』の指導を取り入れた教師は、これらの生徒のことをしっかり認識し、何らかのレディネス（準備）やフォロー（手当）について用意する必要があります。

7点目：「○」の全体数としては(単位の個は略す)、「良かった」が331に対し、「良くない」は290で、「良かった」が41多くなっています。『班活型』を取り入れた授業者側から見た場合どちらかと言えば、もっと「良かった」が多くなることを期待すると思われます。

この点については、次のように考えています。『班活型』は寝る生徒が減りかつ学習活動

により多くの生徒が参加する指導法として、集団を指導する教師側から高い評価となっても、指導される生徒の側にとってはアンケートがあくまで個人の感想であることが、関係していると思われます。

次に「その他（自由記述）」から、いくつか気になるものを取上げて、特に『班活型』での指導上の留意点を確認してみたいと思います。

8点目：「B 11：個々にやったほうがよい」や「B 12：普通の授業の方がよい」「B 17：誰も話を進めようとししない」「B 26：グループ学習の良さがわかりません」等、理由に多少の違いは想定されますが、別途資料を調べると、これらの生徒も『班活型』を評価するA項目にも○を付けており、個々の生徒が肯定的・否定的な両面の評価をしていることが分かります。

9点目：ある意味で一番『班活型』の注意すべき重要な点と言えますが、自由記述の「B 11」「B 12」「B 13」「B 14」「B 19」「B 25」等から言えることで、実は「良かった」の計331は、この「B 11」から「B 25」を記述した比較的「優秀」な生徒の「犠牲」の上に成り立っている数字と考えられる面があります。例えば、勉強が出来る生徒が友達の質問攻めにあい、本人の考えたい内容や先に進みたいのに、進めなかったり、もっと応用や難しい内容を勉強したいのに出来なくなってしまっているという面が考えられます。この点を軽視してはいけません。

『班活型』で授業をする際にこのような生徒がいる場合、そしてなんらかの適切な手立てが用意されるか手当て出来ることが無いなら、『班活型』の取り入れを避ける判断をするべき場合があると考えています。一部の生徒の過剰な負担や犠牲の上に、授業の「改善」が進んだように見えても、それで良しとして進められるのかという事でもあり、慎重な対応が必要です。

また『班活型』を推進している学校で、生徒

資料3

【表1】質問項目間相関係数:A項目→B項目

数値で並び→	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	負	正
A1	-0.08	0.01	-0.02	-0.01	0.13	-0.11	-0.07	-0.14	0.02	-0.15	7	3
A2	0.06	-0.04	-0.07	-0.07	0.08	-0.04	-0.11	-0.24	-0.03	-0.19	8	2
A3	0.06	-0.05	-0.02	0.10	0.06	0.02	-0.04	-0.04	0.04	0.07	4	6
A4	-0.08	0.12	-0.02	0.15	0.06	-0.12	-0.04	0.02	-0.07	0.07	5	5
A5	0.13	0.02	-0.08	0.13	-0.10	-0.14	0.12	0.19	-0.08	0.06	4	6
A6	-0.14	0.05	-0.12	-0.05	-0.21	0.10	-0.14	0.01	-0.01	-0.07	7	3
A7	-0.02	-0.03	-0.18	-0.09	-0.27	0.03	0.29	0.16	0.06	-0.14	6	4
A8	-0.11	-0.06	-0.01	-0.11	-0.11	0.14	0.09	0.15	-0.03	-0.04	7	3
A9	0.03	0.17	-0.10	0.27	0.14	-0.15	-0.13	-0.05	0.08	-0.16	5	5
A10	-0.10	0.05	-0.02	0.18	-0.23	-0.13	0.03	0.14	-0.15	-0.11	6	4
・ -0.2<数値<0.2 : 網掛												
											59	41

【表2】質問項目間相関係数:B項目→A項目

数値で並び→	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	負	正
B1	-0.08	0.06	0.06	-0.08	0.13	-0.14	-0.02	-0.11	0.03	-0.10	6	4
B2	0.01	-0.04	-0.05	0.12	0.02	0.05	-0.03	-0.06	0.17	0.05	4	6
B3	-0.02	-0.07	-0.02	-0.02	-0.08	-0.12	-0.18	-0.01	-0.10	-0.02	10	0
B4	-0.01	-0.07	0.10	0.15	0.13	-0.05	-0.09	-0.11	0.27	0.18	5	5
B5	0.13	0.08	0.06	0.06	-0.10	-0.21	-0.27	-0.11	0.14	-0.23	5	5
B6	-0.11	-0.04	0.02	-0.12	-0.14	0.10	0.03	0.14	-0.15	-0.13	6	4
B7	-0.07	-0.11	-0.04	-0.04	0.12	-0.14	0.29	0.09	-0.13	0.03	6	4
B8	-0.14	-0.24	-0.04	0.02	0.19	0.01	0.16	0.15	-0.05	0.14	4	6
B9	0.02	-0.03	0.04	-0.07	-0.08	-0.01	0.06	-0.03	0.08	-0.15	6	4
B10	-0.15	-0.19	0.07	0.07	0.06	-0.07	-0.14	-0.04	-0.16	-0.11	7	3
・ -0.2<数値<0.2 : 網掛												
											59	41

【表3】A項目間の相関係数

数値で並び→	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	負	正
A1	1.00										5	4
A2	0.70	1.00									6	3
A3	0.17	0.33	1.00								5	4
A4	0.28	-0.20	0.13	1.00							4	5
A5	-0.47	-0.49	-0.05	0.34	1.00						4	5
A6	-0.40	-0.36	-0.28	-0.09	-0.09	1.00					6	3
A7	-0.49	-0.41	-0.50	-0.38	0.45	0.32	1.00				5	4
A8	-0.59	-0.61	-0.60	-0.45	0.06	0.50	0.69	1.00			5	4
A9	0.69	0.45	0.34	0.60	0.09	-0.06	-0.31	-0.67	1.00		3	6
A10	-0.29	-0.57	-0.30	0.49	0.70	0.29	0.39	0.22	0.24	1.00	3	6
・ -0.4<数値<0.4 : 網掛 ・ 数値<=-0.6または0.6<数値 : 太枠線 ・ その他 : 斜体字												
											46	44

【表4】B項目間の相関

数値で並び→	B1	B2	B3	B4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	負	正
B1	1.00										4	5
B2	-0.14	1.00									7	2
B3	-0.21	-0.08	1.00								6	3
B4	0.27	0.75	0.17	1.00							3	6
B5	0.33	0.25	0.43	0.30	1.00						4	5
B6	-0.35	-0.61	-0.14	-0.77	-0.43	1.00					5	4
B7	0.12	-0.42	-0.33	-0.26	-0.61	0.19	1.00				5	4
B8	-0.14	-0.03	-0.15	0.09	-0.74	0.15	0.74	1.00			5	4
B9	0.20	-0.04	-0.41	-0.16	0.36	0.25	-0.07	-0.37	1.00		6	3
B10	0.16	-0.02	0.36	0.26	-0.02	0.04	0.14	0.44	-0.28	1.00	3	6
・ -0.4<数値<0.4 : 網掛 ・ 数値<=-0.6または0.6<数値 : 太枠線 ・ その他 : 斜体字												
											48	42

A1	わからない所などが聞き易い	B1	教室がうるさくなった
A2	互いに教えあえる	B2	基礎ができていないとやはり分からない
A3	普段話さない人と話せる機会になった	B3	自分のペースでできない
A4	やらないといけなくなる	B4	先生が教えてくれないと分からない
A5	寝なくなった	B5	分かる人がいないと班ごとおくれる
A6	楽しくて記憶に残った	B6	黒板が見にくい
A7	勉強がやりやすい	B7	勉強がやりにくい
A8	勉強がはかどる	B8	寝れない
A9	分からない人が他にもいて安心した	B9	分からないひとばかりで不安になった
A10	グループ学習がある方が力が伸びた気がする	B10	グループ学習があると力が伸びない気がする
※	その他(自由記述)	※	その他(自由記述)

の意識調査から高い評価が得られた場合でも、生徒が教師の立場や気持ちを察し「手心」をもって回答している可能性もあります。特に記名式の場合やアンケートをとる教員が『班活型』の「推進者」であるような場合は、気をつける必要があります。

10点目：A 18の黒板の記述「・・・気にしないと思う」については、特にノートを取るという作業がある場合は黒板に背中が向いている生徒にとっては、やはり写しにくい訳です。プリント演習等で黒板を使わない場合は、さほど不自由は感じない生徒も多いと思われます。

そして、これらの点について対策を立てず、単に『班活型』のグループ学習を取り入れた授業を行えばいいということには当然なりません。

6 アンケート結果から（その3）

「資料3」について：表1（表2）は、数値が小さい値になりました。表3と表4は、正・負の相関係数の数値に何箇所か目立つ結果があらわれました。※「数値が小さい」については、絶対値が0.4以下の場合に使います。

表1：A項目→B項目： $-0.2 < \text{相関係数} < 0.2$ の項目が網掛になっています。白抜きセルについて説明します。

- ① 相関係数はA7とB7の0.29が最大なので、ほぼAとBは互いに「弱め」の関係しか見られないと考えられます。
- ② 正の相関より負の相関箇所が多いですが、誤差を考えると数値自体が小さく、AとBの関係が表れていると言にくい結果です。

表2：表1の行と列を交代しただけです。2点、のみ触れます。

- ① B3は、係数が総て負（枠太線）ですが、

やはり値が小さいので、特別な性質をあらわしているとは考えにくいと思います。

- ② B5の質問はやや数値が高く、内容から考えるとA項目との関連性が感じられますが、相関係数の数値は小さい値です。

表1・表2の相関の数値が小さいのは、今回のアンケートの設問の様式の影響も考えられます。

※結論として（表から分かるとおり）、AとBの各項目間に特段の相関関係がみられませんでしたが、但し、本結果と調査様式の関係については、別途調べてみたいと思います。

表3：A項目⇔A項目： $-0.4 < \text{相関係数} < 0.4$ の項目に網掛をしてあります。

- ① 相関の数値に0.6以上がある、A1、A2、A9は「話し合える良さ」でまとめられそうです。A4とA9の0.6、A5とA10の0.7等は、中程度の相関とみえる数値になりました。
A7とA8の質問は、類似しています。
- ② 負の相関の数値 -0.6 以下は、A8とA2、A3で、内容からも関係性が感じられます。A8とA9は班の構成メンバーに「良く勉強が出来る人」がいたかどうか等で、かなり変化すると推測されます。

表4：B項目⇔B項目： $-0.4 < \text{相関係数} < 0.4$ に網掛してあります。

- ① B2とB4では相関の数値が0.6以上で、「強め」の感じがありますが、B7とB8でも、ほぼ同様の数値となりました。
- ② 負の相関として、B2とB6、B4とB6には視力や席の配置の関係が感じられます。

B5とB7の関係と、B5とB8の関係は異なると考えられます。B7とB8は、生徒の状況があり、クラスや学校等によっては、相当の差が開くと思われます。

- ③ B3、B7、B10は、数値に特に表れてい

ませんが、内容には関連性があると思われる
ます。アンケート項目の多さや短めの回答
時間等が影響した可能性があります。

※その他の点については、省かせて頂きます。
数値の見方等、ご指摘ご意見等頂ければ幸い
です。

7 「まとめ」及び「課題」について

(1) 今回のアンケートのねらいは、生徒の状
況把握とそれを通して指導状況等の理解を深め
ること、そしてその内容を授業でどのように活
かすことが出来るかということです。

グループや班活動で話し合いを進めたり、代
表者が発表等するときに、グループによって
は、生徒がかなり負担を感じることがあります。

授業での、事前・班活動中・事後の指導等
において、助言・注意の声かけを丁寧に行うこ
とや、教材の扱い方、班での話し合いのルール
を工夫する等が考えられます。本稿では、具体
的な対応策の例示はありません。今後、なんら
かのかたちで、まとめられればと考えています。

(2) 今回、データは提示しませんでした
が、グループのメンバーを一部入れ替えて班別活
動を取り入れたクラスで、約1月後に同内容で
行ったアンケート結果が手元にあります。○の
総数についてA・B項目共に微減しました。授
業指導法にも一部工夫が加えられましたが、結
果として大きな変化は見られませんでした。ま
た、生徒からは「2回目のアンケート時期、早
すぎ」という声がありました。

また、この形式でも質問Aと質問Bを各5
～7項目程度にしぼるだけでも、AとBの項目間
の相関が高まるものが出てくると考えられます。
また、A1～10、B1～10について、それぞれ
2つずつ5項目にまとめれば、その組合せ次
第で高い相関となるものがあると思われま
す。この点については、項目の内容設定等と合
わせて今後の課題にさせていただきます。理
由は、今回

の調査でそのような分析すること、あまり
意味がないと考えられるからです。

実は、サンプル調査として抽出が特定の条
件や、質問が意図的に操作されていない事
が必要ですが、先に説明したとおり「…人間関係が
直接反映するような項目…」は避け、Bの項
目には例えば、質問例として「人間関係によ
って難しさがある」や「グループ内の人の組
み合わせが難しい」というような項目は設
定しませんでした。表現を工夫し入れても
よかったと現在は感じています。

私自身にも『班活型』の有効性の高さを期
待した面があり、生徒の評価する合計数の差
に「やや少なさ」を感じましたが、もしB項
目に「人間関係」の質問項目をいれると、相
当数の生徒がこちらに「○」を付ける可能
性があり、AとBの「○」の合計数(資料3)
が差が減じるところか、逆転する場合もあ
りえます。今後、他の高校や学年等におい
て調査を行い比較検討することも考えてい
ます。

また、質問一つずつに、「とても良い」か
ら「とても悪い」まで5段階で回答するア
ンケート形式とし、かつ全部で10項目位
を設定する方法もありえます。この点につ
いても、アンケートを作成し実際に比較検
討してみたいと考えています。

(3) 『講受型』、『班活型』について、さ
らに視点・論点を整理し、その内容を利用
してアンケート項目を見直すことを考えて
います。

アンケート結果が実際の授業指導に役立
ち、また、ある程度の期間をおいて比較で
きる内容としておくべきです。

他所で行われた同様のアンケート調査や
過去の指導実践事例、文献調査等も含め、
今後調べていきたいと考えています。

.....

※本稿の資料1～3は、エクセルとその関
数で作成しました。“R”等のソフトの利
用については処理内容から、特に想定し
ませんでし

た。

※各種分析手法利用し因子や性質を探る内容については、今後検討しますが、今回の各質問項目間には基本的に総ての項目間に、強弱の差はあるとしても「なんらかの相関関係はある」と考えています。

※前号の研究論集「第34号」で、P111 右段落の上から15行目：「17年程」→「7年程」に訂正お願いします（校正ミス）。

※参考・引用文献等は文中に記載しました。